



ふれあい通信



2022
8月号

たまふれあいグループにできること 在宅医療の困難症例への対処術



Index

P2

特集1

たまふれあいグループにできること

3つの困難症例への対処術

在宅医療のうち、医療依存度が高く、困難症例と呼ばれる3つのケースの対応を紹介します。

P4

Topics 受け入れ症例&対応処置

P5

訪問リハのリレーコラム vol.9

たまふれあいグループ連携施設のご紹介 その1

P6

特集2

栄養改善を楽しく!

管理栄養士による 調理レク

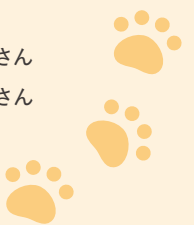
デイサービスふれあいの調理レクリエーションをレポートします。

P8

スタッフ紹介 フジタがゆく!

介護福祉士&精神保健福祉士 池田 あゆさん

社会福祉士&精神保健福祉士 進藤 優里さん



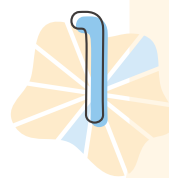
たまふれあいグループにできること

3つの 困難症例への 対処術



たまふれあいクリニックに求められる在宅医療のうち、医療依存度が高く、困難症例と呼ばれるケースとして①がん末期の患者さんへの対応、②認知症患者さんの周辺症状(BPSD)^(*)への対応、③脳血管障害・難病への対応の3つが挙げられます。われわれがこうしたニーズにどうお応えしているかをご紹介します。

(*) Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia. 認知症の主な症状は、中核症状と周辺症状に大別されます。中核症状は脳の神経細胞の障害によって起こる認知機能障害で、周辺症状は中核症状と環境要因・身体要因・心理要因などの相互作用により生じるさまざまな精神症状や行動障害を意味します。



がん末期の 患者さんへの対応



看護師同行でご家族のケアも

がん末期になると、通常の疼痛に加えて、がんがある場所特有の症状があり、医療用麻薬や在宅酸素の導入、座薬など、状態・状況によるサービスの調整が必要です。また、がん末期を自宅でご過ごしたい患者さんの場合、お看取りまでのサポートが求められます。緩和ケア病棟は、事前に面談と判定会を実施してエントリーするため、当日すぐの入院はできないので、在宅でのお看取りを希望されていてもお気持ちの変化に備えて緩和ケア病棟をもつ病院との調整をします。

当クリニックでは、定期的な訪問診療には必ず看護師が同行して、医師とは異なる目線で患者さんやご家族を観察します。体調不良時など、電話による緊急連絡・相談を24時間体制で受け付けており、医師と看護師の2つの番号を用意しています。医師への医療的な連絡だけではなく、看護師への「家族が苦しんでいる姿を見ているのがつらい」といった連絡に対して迅速にサポートできる体制が整っています。

当グループ内に看護小規模多機能型居宅介護（看多機）があり、同じグループに所属するスタッフ同士で連携するため、緊急時のショートステイなどご家族や患者さんの希望に沿った柔軟な対応もスムーズだといえます。

事例 73歳女性

3年前に息子を白血病で看取り後うつ病になり、精神的に不安定な状態。直腸がんの末期で訪問診療により在宅へ移行予定だった。退院後に激しい疼痛があり予定を早めて急きょ訪問診療初診となり、緊急避難的に当グループ看多機へ。安心できる環境の下で、疼痛も精神的にも安定した状態で、今後自宅での看取りに向けて調整する予定。



認知症患者さんの周辺症状 (BPSD)への対応

多職種との連携で
質の高いケアを

定期的な訪問診療は主に内科の医師が担当していますが、患者さんの状態によって精神科医の介入が必要になります。当グループでは、精神科の医師が在籍しているため、精神科・内科それぞれ専門の立場からコンサルや評価に入ってもらい、ことも多く、医師同士の相談が活発です。グループ内でグループホーム(GH)を2拠点で計5ユニット運営しているため「認知症に強い法人」と思われる方も多く、GHの空き状況などの情報共有がスムーズだといえます。

また、当クリニックやGHでは「コウノメソッド」という認知症治療を導入しています。名古屋フォレストクリニックの河野和彦院長が考案した手法で、認知症の分類を行った上で、症状に合った処方薬を、できる限り少量の薬剤で治療しています。



事例 74歳男性

脳血管障害で入院後、自宅へ戻るが独居のため一気に認知症が進む。脳出血を起こさないため服薬が必要だが、怒りっぽくなり他人を自宅へ入れないこともある。訪問診療、訪問看護と、外部の配食、ホームヘルパーによる在宅サポートチームが連携し、玄関の外に「薬を渡せた」「服薬を確認した」などを記録する表を置いて、毎日誰かが訪問している。



脳血管障害・難病への 対応

質の高い訪問リハビリで
QOLの向上を

脳梗塞や脳出血、くも膜下出血などによる脳血管障害の場合、後遺症をもたらす可能性が高く、こまめなリハビリテーションが必要になります。当グループでは訪問リハビリサービスによる退院後の短期集中リハビリの実施が可能です。また、日本リハビリテーション医学会認定リハビリテーション科専門医が在籍しているため、効果的なリハビリの実施が可能です。

パーキンソンやALSなどの難病は進行性である場合がほとんどのため、医療機器が必要となります。気管切開されていて、在宅酸素や人工呼吸器が入ったり、褥瘡ができたりと、医療依存度は高まっていく傾向にあります。

当クリニックは医療依存度が高く、病状が重い方への対応も可能です。ご家族は見守りたい気持ち強い傾向にあるため、丁寧なヒアリングを心掛けています。



事例 88歳男性

妻と2人暮らし。くも膜下出血で入院後、経鼻経管栄養になる。妻が対応困難のため、療養病床転院まで看多機へ入ったが、妻が「家で看てあげたい」と希望したことから自宅退院へ。訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、看多機などの多職種が関わり、妻の特技獲得指導も続け、現在では自宅生活が7年目を迎え、ADLを維持し続けている。



訪問リハの リレーコラム

vol.9

毎日の習慣が 認知症を予防する

ふなばし ゆり
作業療法士 船橋 友里



人は役割を担うことで、生活満足感が得られ、QOLが高まります。社会的な役割を担ったり、さまざまな人と交流したりすることで、認知症予防にもつながるとされています。

しかし、高齢の方は特に、病気やけがを機に急激に役割が減少したり、場合によってはなくなってしまうたりする方が多くいらっしゃいます。役割を積み重ねていくことで満足感と意欲が増し、また役割を担い続けようとする循環が保たれることで、社会的ネットワークのつながりが強まり、認知症予防に結びつくだけでなく、認知症であってもその人がうまく生活することができると考えられています。

役割とは「昔好きだった編み物を家族に教える」「食べ終わった食器を片付けやすいようにまとめる」など、その人自身が役に立っていると感じられることであれば、どんな小さいことでも構いません。「なんとなく一日が終わってしまう」「楽しみがない」という方は、ぜひ新しい役割や習慣を探してみてください。日々の生活を充実させながら、楽しく認知症を予防しましょう。



いつもありがとうございます！

たまふれあいグループ連携施設のご紹介

介護付有料老人ホーム（一般型特定施設入居者生活介護）

SOL 星が丘
044-944-2801

入居者様に心地いい「間」を提供するために
「顔の見えるケアプラン」を目指します



川崎市多摩区菅馬場3-22-1
2016年4月1日開設
事業主体：株式会社長谷工シニアウェルデザイン

ケアを実践する主役を
サポートできるバイプレイヤーを
目指しています



SOL星が丘 リビングリーダー
生活相談員・社会福祉士
奈良 哲さん

施設の特徴を教えてください

「心地いい「間」をデザインする」という企業理念のとおり、入居者様一人ひとりの「心地いい」をデザインすることがわれわれの使命です。SOL星が丘のユニットケアは「1.5対1以上」という手厚い人員配置で行っており、スタッフはそれぞれの立場から「どうすれば入居者様に心地いいと感じていただけるか」と考えながら業務に取り組んでいます。このユニットケアにより3つの間（空間・時間・仲間）の質を高め、入居者様に「選んでよかった」と思ってもらえる居場所をつくりたいと思っています。

そのためにどのような工夫をされていますか

ケアプランを見れば入居者様の顔が思い浮かぶ、「顔の見えるケアプラン」の作成に取り組みたいと考えています。これまでの長い人生をどう生きてこられたか、入居者様の「楽しみや生きがい」を深く伺います。これからどう生きていきたいか、これまでに大事にされてきたことをこでも大事にして差し上げられるようなケアプランをつくるのが、今後の目標です。スタッフ皆が同じ目線で、入居者様を理解できるよう努めたいと思います。

たまふれあいクリニック院長よりおすすめポイント

SOL星が丘様とは約10年のお付き合いですが、その当時からケアワーカーさんも数多くおられ、安定かつ質の高いケアがあります。また、24時間、看護師さんが常駐されており、医療体制も安心できます。

受け入れ症例 & 対応処置

たまふれあいクリニックにできることや、これまでの実績をまとめました。
「この症例は受け入れてもらえる？」「こんな処置をしてほしい」というご要望の参考にしてください。



受け入れ症例	
ターミナルケア、末期がん	認知症
統合失調症、うつ病、薬物・アルコール依存症など（要相談）	脳血管疾患
呼吸器系疾患（COPD、ぜんそくなど）	消化器系疾患
皮膚、皮下組織疾患（褥瘡など）	難病（パーキンソン病、ALSなど）

対応処置			
医療用麻薬系内服投与	○	在宅自己導尿の指導管理	○
在宅酸素療法(HOT)	○	腹膜透析の指導管理	○
気管切開の指導管理	○	輸血	○ (緊急以外)
胃ろう経管栄養法	○	鎮痛療法(持続皮下注射、持続静脈注射)	○
中心静脈栄養法(CVポートなど)	○	鎮痛療法(持続硬膜外注射)	○ (挿入処置は不可)
腎ろうの管理・カテーテル交換	○ (ブラインド挿入ができるものに限る)	在宅人工呼吸療法	○
インスリン注射の指導管理	○	経鼻経管栄養法	○
胸水穿刺	△ (在宅で行うしか、他に方法がない場合)	胃ろう交換	○
悪性腫瘍の化学療法	△ (他院のバックアップがあり、低リスクのもの)	膀胱ろうのカテーテル交換、管理	○
経鼻経管栄養チューブ交換	○	血糖測定	○
腸ろう経管栄養法	○	腹水穿刺	○
尿道留置カテーテルの交換、管理	○		



たまふれあいグループ サービスの空き状況（2022年8月1日現在）

記号の見方		◎十分空きあり ○空きあり ▲要相談 ✕空きなし											
訪問診療	訪問看護	訪問リハビリ			居宅介護支援事業所	たまふれあいの家				たまフレ!			
		PT	OT	ST		デイサービス	看多機	グループホーム 枳形	グループホーム 登戸新町	障害者計画相談支援	障害者就労継続支援B型	障害者就労移行支援	自立訓練 (生活訓練)
◎	▲	○	○	○	▲	◎	○	▲	○	▲	◎	◎	○

多様な症状・
医療処置対応

胃・腸ろう／経鼻胃管／気管切開／
喀痰吸引／TPN管理／バルン・ストマ／
重度褥瘡／呼吸器管理 ほか

地域相談室直通電話番号

044-931-0220

ご相談・お問い合わせ
いつでもお待ち
しております

特集2

栄養改善を楽しく！

管理栄養士による調理レク

デイサービスふれあいの調理レクリエーションでは、川崎市多摩区を中心に事業所栄養サポートなどを行う「LINKのぼりと」とコラボレーションしています。代表を務める管理栄養士の花本美奈子氏からアドバイスをいただき、週1回開催。その様子をレポートします。

文・デイサービス管理者 ^{ばば} 馬場 友美 ^{ともみ}

介護職や看護師、調理スタッフと一緒に調理レクに参加します。ご利用者から教わることも多いです！



管理栄養士

はなもと みなこ

LINKのぼりと 代表 花本 美奈子氏

経歴

2014年に事業所栄養サポートを主とした「LINKのぼりと」を立ち上げ、現在は在宅療養者の食事相談に対応。管理栄養士、糖尿病療養指導士、在宅訪問管理栄養士、在宅栄養専門管理栄養士。



「LINKのぼりと」のホームページはこちら



LINKのぼりとスタッフ片見氏(左)林氏(中央)

花本氏

流れ

事前準備

私、調理レクの日がすごく楽しみなの！



キャップをかぶって手洗い。準備はばっちり！

調理準備



メニューはハヤシライス。市販のルウの箱を開けるとからスタート。「涙出てない？」玉ねぎの皮むきにスタッフが声掛け。



野菜を切る



しめじをほぐす、ピーマンの種を取る、玉ねぎ、ピーマン、ニンジン切る…作業が次々と進みます。「早い！もう切り終わったの？」スタッフの作業が追いつきません！



お鍋で調理



電気調理器具を使って安全に調理します。灰汁取りも丁寧です。



いいにおい！

「いただきますー！」

皆さんで役割分担をして作り上げたハヤシライス。全員で食べることでおいしさが倍増したようでした。

温かいうちに食べないともったいない！



一人で食べてもおいしくないの。皆と食べるとおいしいね



サポートスタッフ

調理スタッフ



毎日の昼食を担当する調理スタッフは曜日交代で2人。医療法人が運営するデイサービスとして、ペーストや刻みなど嚥下調整食にも対応しています。

言語聴覚士



食事の時には言語聴覚士が嚥下の様子を定期ラウンドしています。



「ありがとう」の言葉で喜びを感じてもらおう

病院の管理栄養士は栄養状態の改善を目標としますが、デイサービスで行う調理レクリエーション(調理レク)は、ご利用者自身ができること、共に食えることを楽しむものです。デイサービスふれあいの調理レクでは、介護職や看護師、調理スタッフなど多職種が連携して、ご利用者の調理をサポートします。この調理レクに関わっていただいている「LINKのぼりと」は、神奈川県栄養士会が運営する栄養ケア・ステーションに認定されています。地域のデイサービス、訪問看護ステーションなど事業所の担当管理栄養士として、ご利用者に対する栄養支援で職員が困ったときや悩んだときに、栄養学的見地から情報を集約しサポートされています。

けがをしないように、ご自宅でのお料理を止められているご利用者もいらっしゃいますが、調理レクではスタッフに見守られながら料理を楽しめます。長年、ご家族のために料理されていたご利用者は手際がよく、任された野菜の調理もあっという間です。スタッフからは自然と「すごい」「ありがとう」という言葉が出ます。花本氏は、「普段の生活では、周囲からケアを受けて、ありがとうと言う側のご利用者が、調理レクを通じて感謝される立場になり、役割を担う喜びを感じていただけることに意義がある」と言います。また栄養アセスメントとして、ご利用者の食べる様子などからフレイルの兆候をうかがうなど、管理栄養士としての視点を持ちながらスタッフのサポートを行います。

全力相談員 フジタによるスタッフ紹介

フジタがゆく!

ふじた あん
地域相談室 相談員 藤田 杏



インタビューした人

たまふれあいグループ地域マネジメント部
地域相談室 相談員

介護福祉士 &
精神保健福祉士

いけだ
池田 あゆさん(右)

社会福祉士 &
精神保健福祉士

しんどう ゆり
進藤 優里さん(左)

協力しながら頑張っていきたい
と思います。どうぞよろしく
お願いいたします!



こんにちは! 相談員のフジタです♥

今月は、4月に新卒で入職した相談員の池田と進藤それぞれに、お互いをインタビューしてもらいました(^ ^)♪

はじめまして!池田あゆです。はじめましてということで、同じ年で同期の進藤に質問したので、紹介させていただきます。

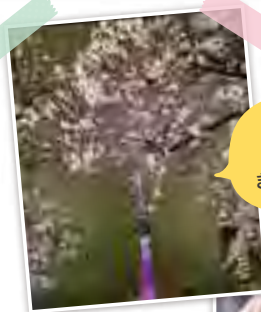
進藤の出身は秋田県大仙市で、大曲の花火大会が有名です!趣味を聞くと、「趣味というほどでもないですが…小学生のときはピアノ、高校では合唱部だったので音楽が好きかもです」とのこと。たまふれあいグループに就職した理由は、「グループのロゴであるネコのキャラクターがかわいくて興味を持ちました!」という一面を知ることができました♪

進藤は、群馬県の大学で社会福祉士と精神保健福祉士の資格を取得しています。大学生から一人暮らしをしていて今年で5年目になるそう。まだ神奈川県に来て4カ月目の私より大先輩です(‘◇’)ゞ

はじめまして!進藤優里です。池田の出身は福岡県北九州市です。北九州市で有名なのは、成人式が派手なところですよ!

池田がたまふれあいグループを知ったきっかけは、求人サイトでした。「関東で人と関わる仕事がしたい、地域に根付いた仕事がしたい、医療にも携わってみたい」と思い求人を探していたとき、たまふれあいクリニックを知り、訪問診療をメインに行うクリニックを珍しいと思って見学に来たそうです♪そのときに感じた、職場の明るい雰囲気惹かれて就職を決めたようです!(^^)!

地域相談室はこれからますます充実します!皆さまからのお問い合わせに厚く、熱くお答えしていきます!



初めて行った
隅田川のお花見が
きれいでした!(池田)

関東に来たら行きたかった
横浜の中華街!
「元祖パンダまん」が
かわいかったです♪(池田)



大学の友人と食べた
りんご飴がおしゃれ
でした(*^^*)(進藤)



京都旅行は
大学時代の思い出です。
また行きたいなー。(進藤)

フジタの部屋



「フジタがゆく!」は
2019年1月号から始まりました。//

3年半にわたり「フジタがゆく!」をご覧いただき、
ありがとうございました!

来月号からは、フレッシュな新人の二人に引き継
がせていただきます(^ ^)

今後も地域相談室をよろしく願いいたします♪



東北人 フジタのつぶやき

いつも「ふれあい通信」を
ご覧いただき
ありがとうございます♥

訳:ありがとうございます=ありがとうございます



044-931-0220

〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1763
ライフガーデン向ヶ丘2F

ふれあい通信は、地域相談室のメンバーがつくる「地域とつながる」会報誌です